

女帝と道鏡

藤原氏は天武天皇の子孫と血縁関係を結び、血を引く者が即位することを望んだ。孝謙天皇は天武～聖武天皇の血を引くが、子をもたないために、期待に応えられない。そこで藤原仲麻呂は光明子（孝謙の実母）と協力し、これまで注目されなかった淳仁天皇を即位させ、義父という立場から思うとおりに動かした。

○即位と不安—孝謙天皇の代

●先行き暗い即位

聖武天皇の息子はついに育たず、

聖武はやむを得ずに娘の⁽¹⁾ _____ 天皇を即位させた。

⇒女帝は独身か未亡人を条件とするため、子をもたない（1）が即位しても、藤原氏の血を引く者への皇位継承は不可能であった。



図1 孝謙天皇

●大仏の開眼供養

752年、インド僧菩提僂那^{ぼだいせんな}が、完成した東大寺⁽²⁾ _____ に目を点じた。



図2 盧舎那仏

●藤原仲麻呂の台頭

橘諸兄は従者に失言を密告され、罪は不問となったが辞職した。

⇒⁽³⁾ _____ （南家、武智麻呂の子）が、

⁽⁴⁾ _____ （光明皇太后）の後ろ盾で政治の実権を握った。



757年、仲麻呂は祖父藤原不比等が編纂した⁽⁵⁾ _____ を施行した。

⇒祖父を顕彰し、あわせて自分の地位の強化を意図した。

⇒施行は⁽⁶⁾ _____ （橘諸兄の子）らから強く批難された。



757年、⁽⁷⁾ _____

…仲麻呂が（6）を含めた反仲麻呂派に反乱の疑いをかけ、一斉逮捕した事件

⇒反発者たちが消え、仲麻呂は独裁政権を打ち立てた。



図3 橘奈良麻呂

○太上天皇と天皇—淳仁天皇の代

●あくなき権勢追求

藤原仲麻呂は光明子の協力で孝謙天皇を譲位させ、

義理の息子である⁽⁸⁾ _____ 天皇を即位させた。

⇒即位の日、仲麻呂は（8）から⁽⁹⁾ _____ の名を与えられた。

⇒この他にも経済的特権を与えられ、果てには太政大臣に就任した。

◇（8）は義父仲麻呂の言いなり

◇譲位後の天皇は「太上天皇（上皇）」と表記



図4 淳仁天皇

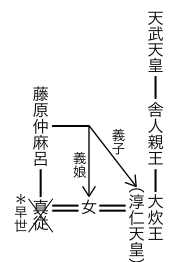


図5 義理の関係

●協力者の死

孝謙と淳仁の仲を取り持っていた光明子が死去した。

●ゆらぐ権勢と没落

孝謙^{だいじょうてんのう}太上天皇が自身を看病した僧⁽¹⁰⁾ _____ を寵愛^{ちようあい}した。

→淳仁がこれを注意すると、孝謙と淳仁の仲はより悪化した。

⇒孝謙が淳仁の権力を制限したので、仲麻呂の権勢はゆらぎ始めた。

◇権力の優劣は「太上天皇≥天皇」



仲麻呂は仲間を次々と左遷され、苦境に立たされた。

→764年、⁽¹¹⁾ _____ (_____)

…仲麻呂による道鏡排除のための挙兵事件

⇒仲麻呂は敗死し、廃された淳仁は淡路に流された。

◇乱後、孝謙は戦死した兵の弔いと鎮護国家の祈念のために、
年代の明確な最古の印刷物である百万塔陀羅尼^{ひやくまんとうだらに}を印刷

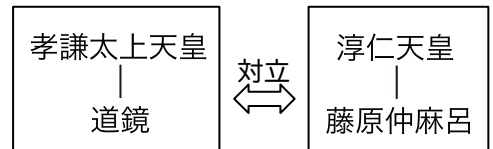


図6 孝謙と淳仁の対立

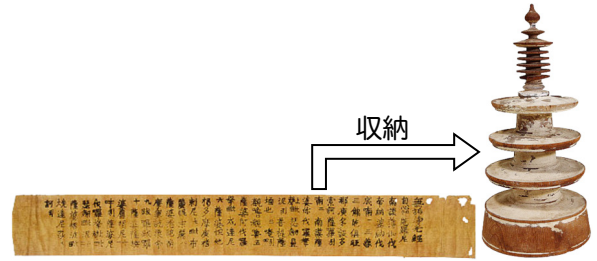


図7 陀羅尼(左)・百万塔(右)

○皇位継承問題—称徳天皇の代

●道鏡の台頭と宇佐八幡神託事件

孝謙太上天皇は再び即位して(重祚^{ちようそ})、⁽¹²⁾ _____ 天皇となった。



道鏡は(12)の寵愛を受け、異例の早さで出世した。

→765年、太政大臣に準じる太政大臣禪師に任じられた。

→766年、皇太子に準じる⁽¹³⁾ _____ にまで上り詰めた。

⇒(12)は道鏡への譲位を望んだが、周囲を納得させられる理由がなかった。



769年、宇佐八幡宮の神官が(12)と結託し、

神から「道鏡を天皇にすべき」とのお告げがあったと報告した。

⇒(12)は神の意志の再確認するために、⁽¹⁴⁾ _____ を派遣した。



(14)が、反道鏡派の⁽¹⁵⁾ _____ (式家、宇合の子)らと示し合わせ、

神の意志は「跡継ぎは必ず皇族にすべき」であった報告した。

⇒神託を利用した(12)の譲位計画は失敗に終わった。

◇(14)は(12)の怒りを買って、姉和氣広虫とともに流刑処分



図8 称徳天皇



図9 和氣清麻呂

●天武系の断絶と天智系の即位

称徳の死によって、次の2点が生じた。

①道鏡が没落し、⁽¹⁶⁾ _____ 国の薬師寺に左遷

②天武天皇の血統が断絶



天智天皇の血統である⁽¹⁷⁾ _____ 天皇が、

⁽¹⁸⁾ _____ に擁立された即位した。

⇒天皇の系統が、天武系から天智系に移行した。

◇(17)…妻は百済系渡来人の高野新笠

◇擁立された(17)は式家を重用



図10 藤原百川

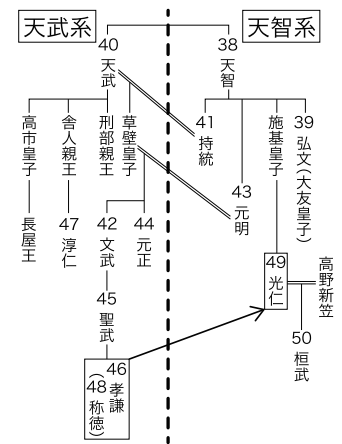


図11 系図